

期待しています
この夏が
実りの秋につながります

MITOYA 2014 夏物語

ソフトボール

祝

女子8月1日(金)〜5日(火)
男子8月7日(木)〜11日(月)

横浜大会

インターハイ男女アベック出場

WELCOME

8/5

火曜日

中学3年生と保護者の皆様のお越しをお待ちしています。

三刀屋高校 オープンキャンパス

8:45 受付
9:10 全体説明
生徒発表
模擬授業
部活動見学
アンケート記入
12:15

ぼくらの夏がきた



↑ろうけつ染め 作: 妹尾有真(書道部1年)
└ 毛筆部分をロウで書いて染まらなくした染色作品



はじまります

暑中お見舞い申し上げます

県立三刀屋高等学校 教職員一同

未来の三高生にも期待しています

- 暑く、三高生が熱く躍動する夏
- 平和を祈る夏
- 体験学習の夏
- 家族と団欒の夏
- 部活動に燃える夏
- 進路をみつめる夏
- 趣味にいそしむ夏
- 課題研究に没頭する夏
- 雲南の祭りに燃える夏
- 片っ端から本を読む夏
- ボランティアに汗する夏
- 夏休み返上で受験勉強の夏

あつという間の夏休み
今の君にはどんな夏が似合いますか
君をその気にさせる三高の2014年夏、
その終わりに「雲南夢発見伝」の続きを聞かせて下さい。



【本紙のコンセプト】
うちの学校って、何気に凄いじゃん!!
▼友達がそんな事していたなんて知らなかったヨ!!▼自分の立ち位置が見えてきた!! ...
学校が見えてくる、自分が見えてくる。
学校に誇りを持ち、自分に自信を持つ。
夢の輪郭が大きくはつきり見えてくる。
そんなきっかけ作りの一助になれば幸いです。コンセプトは「みんなの活躍を紙面に」「学校と地域が元気になる紙面」です。

校長 恩田 佳雄

MITOYA
島根 三刀屋
県立 高校

蒼雲

学校だより
第86号

【発行所】
三刀屋高等学校
〒690-2404
雲南市三刀屋町
三刀屋912-2
TEL: 0854-45-2721
FAX: 0854-45-5630

【印刷所】
有限会社木次印刷
〒699-1312
雲南市木次町山方
630-5
TEL: 0854-42-8133
FAX: 0854-42-8155

長崎平和祈念像



つながろう三高
つながろう雲南
如己愛人

無念を語り継ぐ
校長室前の廊下に小さな額が掲げられている。平成3年に三刀屋町如己の会から贈られた額には、永井隆博士の著「長崎の花」の一節が紹介される。

平和を...
誰もこう願っています。だけれども、合っています。けれど、大きな声で叫ぶことは政治家に任せよう。よりほかに手がないと、あきらめていくのではありませんか? 人の目につく運動は社会活動家という偉い人々がしてくれているだろうと見物しているのではないだろうか。(中略)「平和を!」この願いをいちはん強く叫びたがっているのは、將軍でもなく、社会運動家でもなく、政治家でもなく、じつに私たち町民なのです。

SINCE 1924 三刀屋高校はお陰様で創立90周年/10月4日(土)創立90周年記念式典

▼長崎の被爆者救護に尽力した雲南市出身の永井博士は、聖書の言葉を引用して「己の如く人を愛せよ(如己愛人)」と論じた。この言葉の如く、自らを育んだ故郷を愛し大切にすることが、世界中の人々が互いの故郷を尊重する心につながるのではないだろうか。そうあって欲しい。▼現実には、世界中に危うさが見え隠れする時代。戦争を自ら体験しないと其の恐ろしさがわからないのだからか、首をかき上げたくなる。▼被爆地の語り部は言う。「語り継ぐということは、戦争の犠牲となった人々の無念を伝えることです。」▼雲南市が主催する「永井隆平和賞」も今年で24回目。8月の原爆の日を前に、本校では毎年この時期に2年生が現代文の授業を通して「愛」と「平和」を主題とする小論文に向かう。戦争を知らない世代でも、ふるさと雲南や島根を愛する気持ちで平和への思いを語ることはできる。(編集長記)

全国高等学校総合体育大会



健闘を祈ります



女子ソフトボール

初戦の対戦相手
 ■神村学園高等部(鹿児島)と県立水戸商業高等学校(茨城)の勝者
 ■8月3日(日)13時～
 ■保土ヶ谷運動公園 軟式野球場(横浜市)

男子ソフトボール

初戦の対戦相手
 ■県立日向高等学校(宮崎)
 ■8月9日(土)15時～
 ■新横浜公園投てき場(横浜市)

第96回全国高等学校野球選手権 島根県大会 7月15日～26日

野球

初戦の対戦相手
 ■浜田高等学校
 ■7月18日(金) 第1試合10時～
 ■松江市営野球場



「青い空と白い花」 毛利奈緒(2年)



標記コンクールに本校からは16名が出品し、6月13日に東部会場となった松江南高校で審査結果が発表された。今回の特選作品は、秋季コンクールでの特選作品と合わせて年末の県高校写真展に出品を予定し、1・2年生の作品の中から次年度の全国高総文祭への出品推薦作品が決まる。

写真部

高文連春季写真コンクール

- ※特選(本校4名6点)
- ▽穴戸由佳(3年) 「初夏のしづき」
- ▽坪倉翔太(3年) 「氷柱(つらら)」
- ▽毛利奈緒(2年) 「刑事ドラマの見すぎの人」
- ▽「青い空と白い花」
- ▽荒金恵美(2年) 「デッサン」
- ▽「アトリエ」

「益田さいえんすたうん2014」内容

- 7月4日(金)
 - すばる天文台体験初授業
 - 科学ショー(中学生向け)
 - 中学生科学チャレンジ
 - 科学ショー(小学生向け)
 - サイエンス工房
 - サイエンスカフェ(自然科学部対象)

宿泊場所に日本科学未来館の講師を招いてテーマに沿ったワークショップを実施。島根大等の教授や院生も参加。

- 7月5日(土)
 - 科学ポスター発表
 - 高校生科学チャレンジ 「ゆっくり落としてみようⅢ」
 - JAXA 森田泰弘氏による講演会 「宇宙科学研究所 工学博士 (イブシロンロケットプロジェクトマネージャー) 「イブシロンロケットの挑戦」

その後、3ブロックに分かれて意見交換を行った。本校が所属する出雲ブロック会では、各校合同でできることを話しあった結果、7月21日(月)に出雲市駅と出雲大社の周辺2か所に分かれて東日本大震災被災地への募金活動を行うことを決定した。

午後のはじめは、昨年の東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2013」に指導者として参加された木次中学校の永瀬俊雄先生の講話。生徒を代表して本校部長の曾田紗月さん(2年)が「何かに気づいた後、行動に移すことの大切さを知りました。」と謝辞を述べた。

その後、3ブロックに分かれて意見交換を行った。本校が所属する出雲ブロック会では、各校合同でできることを話しあった結果、7月21日(月)に出雲市駅と出雲大社の周辺2か所に分かれて東日本大震災被災地への募金活動を行うことを決定した。

県高校青少年赤十字メンバー春季協議会

JRC

県内高校のJRC部員が一堂に会する標記会合が先月中旬、松江市白湯本町のステイツクビルで開催され、総勢156名の高校生が参加し、本校からも7名が参加した。午前中はスタディセンター(3月、5泊6日の全国リダー研修)出席者による報告

グラントワ大ホールステージでの科学チャレンジ「ゆっくり落としてみよう」に三高も挑戦



武者震いですがピビッたりしていません

↑三刀屋高校の作品

自然科学

1泊2日の研修に参加

県内の理系高校生が集う「益田さいえんすたうん」が7月4日からの2日間、益田市のグラントワで開催された。本校からは自然科学部員4名(2年)が参加し、各種実験・コンテスト・講演等、内容の濃いプログラムに大きな刺激を受けた。

「益田さいえんすたうん2014」

今年も「ゆっくり落としてみよう」に挑戦

第3位入賞

文科省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受けている益田高校が主催する恒例事業で、今年も講演のほか科学に関する教室やサイエンスショーも多数準備された。

2日目の自然科学部科学チャレンジ「ゆっくり落としてみようⅢ」には8校が出場。紙コップ2個とA4コピー用紙1枚を自由に組み合わせで作った作品を、高さ6枚のゴンドラから落として滞空時間の長さを競うもので、本校は3位と健闘した(写真)。

最後は、イブシロンロケットのプロジェクトマネージャーをつとめる森田泰弘氏(JAXA宇宙科学研究所工学博士)の講演を聴講し、刺激の多い有意義な2日間となった。

県総体明けからの一学期後半は、LHRや総合的な学習の時間等を利用して、さまざまな講演会や進路・キャリア教育関連のプログラムが設定されました。7月に入ってからだけでも図書館での講演(P.T.A研修)、2年と3年の進路講演会、防犯教室もありました。生徒の感想からは、「一つひとつの場面に真摯に向き合う姿勢をうかがうことができました。」

1年「産業社会と人間」

1年生は4月のフレッシュマンセミナー(三瓶、2泊3日)での「仕事調べ」に続き、

▼科目「産業社会と人間」とは総合学科としての科目で1年次に週2時間設定されています。教科書もありますが、学習内容は学校ごとに全く異なります。専門高校から総合学科に移行した学校では元の学科のカラリも強く、普通科から総合学科に移行した三刀屋高校は今も大半が進学するため、進学を前提としたキャリア教育を柱とします。

2学期には事業所インターンシップ(地域産業研究実習) & アカデミックインターンシップ(大学訪問)も

6月には前号でも紹介したとおり、市役所から講師をお招きして雲南市の魅力と課題について考えました。さらに一学期後半は班に分かれて「雲南の○○」と題し

て、地元事業所を業種別に調べました(写真)が、これらの学習活動は、秋の事業所インターンシップ(地域産業研究実習)に向けた準備でもあります。基本的には自分たち

が関心を寄せる業種について調べますが、同時に雲南市の抱える課題も認識することになります。集まった情報は、4月に学んだKJ法(写真)を用いてカードの一つひとつ記入して整理しました。また、他班の調査報告を目にして、自分が知らなかった地元のさまざまな情報入手する機会ともなりました。各班が模造紙にまとめたものは、総合学科棟の階段にしばらく掲示しております。ご来校の際にご覧ください。

なお、秋の事業所インターンシップは昨年実績で60を超える事業所で受け入れていただいています。地域の皆様のご理解とご協力のお蔭です。今年もよろしくお願ひします。また、同じ2学期にはアカデミックインターンシップ(大学訪問)も計画しております。9割以上が進学する本校生徒にとって、この二つのインターンシップを両輪として自分の進路を考える一助としています。

2年進路講演会

「高校生としての『旬』を生きる」
～進路実現に向けて今なすべきこと～

講師/村上育明先生

6/17

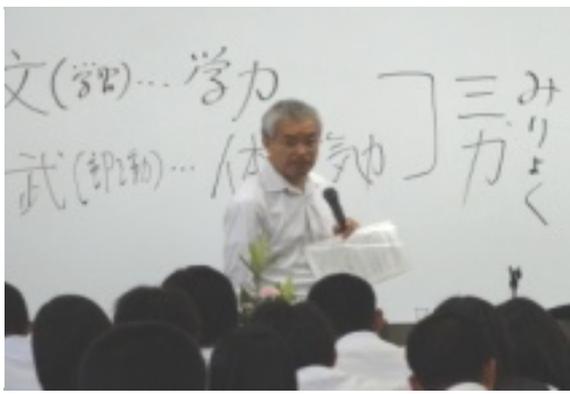
今年も教育未来研究会「そうぞう」の村上育明先生をお招きしての講演会です。

は、人生には年代毎の『旬』があること、高校時代の『旬』とは何かを考え実践することが強調され、当たり前のことが当たり前にできるようにする「凡事徹底」が説かれました。

その上で、学習と部活動の両立をめざし、学力・体力・気力の「三力(みりよく)」を身につけることの大切さ、勉強をしないと何をしたいかが分かる(勉強しないと何をしたいかが分からない)ことを力説されました。今後の生活で心がけることをさらに7つの観点でお話しいただきましたが、紙幅の関係で

これ省略し、以下には生徒の感想を抜粋して掲載します。

【生徒の感想(抜粋)】
▼今しかできないこと、頑張れないこと、深く考えさせられる時間でした。4S(しな



(6月17日、総合学科棟大講義室)

は、人生には年代毎の『旬』があること、高校時代の『旬』とは何かを考え実践することが強調され、当たり前のことが当たり前にできるようにする「凡事徹底」が説かれました。

その上で、学習と部活動の両立をめざし、学力・体力・気力の「三力(みりよく)」を身につけることの大切さ、勉強をしないと何をしたいかが分かる(勉強しないと何をしたいかが分からない)ことを力説されました。今後の生活で心がけることをさらに7つの観点でお話しいただきましたが、紙幅の関係で



↑「雲南の○○」をテーマに調べ学習

KJ法による整理

3年進路講演会

7/10

講師/山崎裕正先生
(香川大学教授)



今年も香川大学の山崎裕正教授に「賢い大学、学部選びの方法」「一般試験で国立大合格の方法」「推薦・AO入試対策特別講座」を2時間にわたってお話しいただきました。説得力ある分かりやすい説明に、生徒も決意を新たにしました。

しつかりすることが大切だということが分かりました。▼今何がしたいか分からなくなりました。でも先生の話を聞いて、まず何がしたいかを考えないで、どんな事になって大丈夫なように、しつかり勉強していこうと思いました。▼今までの講演会で一番心に響きました。睡眠時間や起きる時間のことを言われ、昨日からさっそく実践しました。また、…(講演後の個別質疑で)色々な面で「ポジティブ」って大事だなと思いました。とにかく「前向きに笑え」と言われました。そう言われてなぜか心が軽くなりました。昨日の講演から少し考え方が変わりました。今しかできないことを日々全力で取り組んで、日々変わっていきたいです。

PTA活動へのご参加・ご協力ありがとうございます

PTA研修会



「おはなしレストラン」がやってきました

『図書館がつなぐ学びの輪』

講師/岩田英作氏(島根県立大学短期大学教授)



7/1、三刀屋高校図書館で

今年2月にも来ていただいた岩田教授に島根県立大学松江キャンパス(短期大学部)総合文化学科の紹介や、共通科目「読み聞かせ」の取り組み、「おはなしレストラン」にかかわった学生や子どもたちの「学びの育ち」についてお話ししていただきました。

研修会には保護者の皆様、近隣の小中学校の図書館関係の先生方をはじめ地域の読み聞かせボランティアの方々など50名を超える皆様の出席があり、岩田先生やゼミの学生さんによる読み聞かせにも聞き入りました。

ある絵本の紹介では、作者

が戦争の犠牲となった幼なじみの無念の情を思い、生きていくことの素晴らしさをテーマとしていることも紹介されるなど、作品の陰に隠された驚きのエピソードも聞くことができました。

当日の様子については、今日の図書館だよりもご覧下さい。

6月23日からの男女共同参画週間にあわせてジェンダー川柳を募集しましたが、呼びかけが足りなかったせいか、わずか数点しか寄せられませんでした。コンクールにすれば出品数も増えたことでしょうか、今後とも随時受け付けていると思います。保護者の皆様からの応募も大歓迎です。思わず苦笑いするような傑作を考えてみてください。

父の血流のりつも不機嫌おばあさん

匿名

PTA生活指導委員会 兼 人権・同和教育推進委員会

地区PTAが終了した後の



昨年の文化祭2日目の模擬店

今年9日(水)には、PTAの標記委員会が本校で開催されました。各地区PTAでも話題に上った「夏祭り」の際の「パトロール」「文化祭」の保護者模擬店等の計画も提案していただきました。

個々の詳細案は、前後して正式に一般会員の皆様にも伝

えられる予定です。環境美化ボランティア活動へのご協力をお願いします。また、10月4日(土)の90周年記念式典を控え、9月21日(日)に校地内の環境美化ボランティア活動をお願いする件については地区PTAでご了承いただき、各支部で参加者をとりとめていただくことになりました。感謝申し上げます。

地区PTAへのご参加ありがとうございました

7月に入り各地区PTAへのご参加ありがとうございました。開催のなかつた遠方の地区から、わざわざ学校近辺の地区PTAにご参加いただいた皆様もあり、誠にありがとうございました。

また、今月22日からの

1、2年生の保護者面談、3年生の三者面談につきましても引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

詳しくは各担任からの案内文書をご確認ください。



吉田地区PTA会場

「進路の手引き」を発行しました



「進路の手引き」の今年度版を発行しました。地区PTAの3年懇談会でもその一部の資料を紹介しましたが、全体で約70頁の「手引き」は、3年間のキャリア教育全体計画と各学年の進路スケジュールに続いて、大きくは進学に

関する情報と、公務員を含む就職に関する情報に大別されています。生徒の皆さんだけでなく、保護者の皆様にもご活用いただきたいと思ひます。なお、今春卒業生の「合格体験記」もまもなく発行の予定です。

3年生保護者進路ガイダンス

県総体翌週の6月13日(金)に実施した標記ガイダンスでは、ジョブカフェしまね(松江

駅前テルサ内)の石倉修キャリア・コーディネーターからも助言をいただきました。ジョブカフェは地域の実情に合った若者の能力向上と就職促進を図る機関で、地元の学校を

卒業後も経験・技能・志を持って再び地域へ還り、ふるさとで自己実現を図って欲しいと期待され、それを支援するために様々な県内情報を発信していることが紹介されました。



10周年を迎えます/ 総合学科 & 雲南市制 90周年を迎えます/ 学校創立

シリーズ

三高新時代への胎動

地域でつなぐキャリア教育モデル事業実践校

地域とともに

第3回

「自分をつくる楽校」

地域でつなぐキャリア教育モデル事業



6 / 14

入学式の雲南市教育長の祝辞の中でも紹介のあった「自分をつくる楽校」が開始した。6月14日(土) 午前の大東高校に続き、午後には木次町のチェリバホールに16名の「アラーレ」講師陣を迎えて第1回の「楽校」が開かれた。

「アラーレ」は自分たちの生き様や価値観を互いに自由に発信し合える場を作ろうと、一昨年に誕生した団体。毎月、全国各地の数十名の若手社会人が集まって学び合いの場を設けている。現在の主な活動は、「若手社会人による中学・高校生への出張授業」と「同世代による授業形式のシニアの場作り」とのこと。

チェリバホールの会場には三刀屋高校の生徒のほか雲南市内の中学校からも参加を得



三高生を含む参加者と社会人講師(チェリバホール)

16名(秋田2、東京8、富山1、愛知1、奈良1、広島1、益田1、隠岐1)の皆様!市役所職員、秋田県湯沢市地域おこし

協力隊、財務省、リクルート、ベネッセ、名古屋市長議員、小学校教員、大学教員、学習塾、農家、金融関係、IT関係、エネルギー関係、モバイル関係

て、「①社会人自己PR ②座談会 ③質問・感想 ④振り返り」の流れで展開された。

座談会では各グループがアイズブレッキングを織り交ぜながら、社会人からの高校や大学時代の話、自分の職業や生き方についての話に聞き入り、参加生徒もさかんに質問を繰り返していた。

本校総合学科でも社会人の講話を聴く機会は少なくないが、社会人との座談会形式の活動は設定していない。今回スタートした「楽校」では、「何のために学ぶのか」「何

のために働くのか」「どんな夢を持ってほしいのか」「今何をすればいいのか」...そんなことを認識、再発見するきっかけ作りとなるに違いない。夢や目標を持つて高校生活を送ることができれば、高校生活は楽しく充実したものになることだろう。

「楽校」は今後ほぼ月一回のペースで開催される予定で、すでに7月12日(土)には本校を会場に2回目を開催し、第3回は8月9日(土)に予定されています。

(キャリア教育担当記)

【参加生徒の感想(抜粋)】
▼自分にはまだやりたい事が全く分からなくて、焦る気持ちがありました。▼考え続けて、行動し続けること」で

だんだんと見えてくるのだと分かった...▼人とかかわること、何事にも一生懸命取り組むことの大切さを改めて学ぶことができました。▼将来の仕事の選択肢をたくさん持つことで、可能性が広がるなと思えました。▼全く知らない社会人の方と面と向かって深くまで話す機会はなかなか無いので、とても良かったです。▼全国には色々な考えを持ち、すごい志を持っている人たちが沢山いるんだと思っ

斐伊川今昔物語 第2回

「木次の一文上がり」

『たたら侍(仮称)』を勝手に応援するシリーズ

←今はほとんど姿を消した「一文上がり」(雲南市木次町の八日市交流センター隣)。



※図のような天井川で、現在では河床(川底)が低下しつつあることを次号以降で紹介予定。



たたら製鉄(鉄穴流し)が遺した文化的景観(砂鉄を採取するための鉄穴(かんな)流しで急速に河床が上昇した江戸時代、日本海

に注いでいた斐伊川は洪水の規模と頻度を大きくし、1630年代には流れを変えて今のように宍道湖に注ぐようになった。以来、宍道湖東端の松江の洪水が頻発するようになったのは言うまでもない。

その前後、斐伊川や安来市を流れる飯梨川・伯太川では、堀尾氏に代わる松江藩主京極若狭守忠高(1634~1637)が洪水防止のための堤防工事を行った。このうち、安来市大塚町付近の伯太川の土手(ゲゲの女房の実家裏手)、斐伊川下流の出雲市の武士土手(県立大出雲キャンパス近く)、そして桜並木でお馴染みの木次の土手は、ともに京極若狭守にちなんで

「若狭(わかさ)土手」と呼ばれる。木次の商家では、洪水時の家屋の浸水を防ぐために盛り土をして、石段を上つて玄關に入るようにした。これを一文上がりと呼び、今も市街地の一部にその名残を見守る。

山田謙三氏は『あかがわ(昭和46年)』の中で次のように紹介している。「木次町の市街地は低湿な位置を占めているので宅地や道路を競って高く上げる習慣を持つている。之は木次だけのことではなく斐伊川里方でも農家は低湿地を避けて山麓に位置しているし、斐伊川下流では戸別に築地と称して宅地を高めている。木次の一文上りとは蓄財があ

れば少しでも宅地を盛り土したのでこの語が出たのである。然るに堤防は次第に完全になり川底は低下するし...一文上りで上りすぎた家は、今度は一文下りで道路と同じ水準に一致するようになった。」

洪水の危険が軽減し、またリアフリーが叫ばれる今日では、こうした段差は意図的に解消されてほとんどなくなつた。写真の一文上がり(石段)は、洪水と闘った歴史を後世に伝えようと保存されている場所だ。写真手前方向の八日市交流センターの間では、昨春から週末に営業する「八日市ギャラーリー&一文上がり茶屋」が賑わい創出の一助となっている。

さんこう 三高90年物語



第3回 学校は文化遺産の宝庫 学校はオープン・ミュージアム



『和歌三首』
揮毫/広野加奈

『精力善用』揮毫/嘉納治五郎

旧制中学以来の90年の歴史を刻む三高には、現役生徒が知らない数々の文化遺産が記念館「蒼雲館」に収蔵されている。壁面に掲げられた写真を見るだけでも歴史の重みを感じられる。若槻礼次郎首相や井上靖氏が来校した際の写真も興味深い。蒼雲館の内部は改修されて綺麗な空間となっているが、建物自体が本校にとっては貴重なお宝。昭和40年代の全面改築で唯一残った木造旧校舎で、元は図書館だった。

蒼雲館に眠るものだけが文化遺産ではない。校舎・敷地のいたる所で、素晴らしい美術品の数々を目にできる。校舎内外はオープンミュージアムだ。著名な方々の手になる作品だけでなく、在学中の生徒作品や先輩諸氏からの寄贈品も多いが、

今回は書に限っていくつか紹介させていたたく。
◆◆◆◆◆
現在は校長室に掲げられる『不動』は三中・三高の伝統を感じさせる力強い筆致。昭和7年に熊本県から赴任した隈部信雄第3代校長の揮毫である。このほか会議室や応接室には、前号で紹介した田部長右衛門氏の揮毫による書も多いが、職員室前の廊下で目を引くのが講道館柔道創設者の嘉納治五郎(号帰一)の『精力善用』だ。「何事をするにも、その目的を達するに最も有効に働かさなくてはならない」という意味らしい。三高柔道を育て上げた中田克己氏(昭和11年卒)

が本校に寄贈されてからちょうど20年となる。
これとは対照的な流麗な筆致の作品が横に並ぶ。平成6年春に卒業した広野加奈さんの『和歌三首』だ。在学中に指導していただいた書道の藤原清一郎先生から、学校に何かを残したいと言われたので寄贈したとのことだ。
藤原清一郎先生(号清峯)は布勢小学校長を最後に退職後、昭和46年4月から20年以上にわたって書道講師としてご勤務いただいたが、平成7年1学期末に逝去された。広野さんの作品と同じく平成6年に寄贈していただいた『福以德招』が今も図書館に掲げられている。

(編集長記)

いざという時の

AED

使う勇気が大切です

そのためにも↓

教職員講習(救急救命法)を毎年行っています

生徒講習も学期末に



日本赤十字社島根支部の職員を講師に招いた教職員講習(5/12、大講義室)

本校では毎年繰り返し教職員の救命救急法の講習会を開き、AEDの使用方法も確認しています。AED(自動体外式除細動器)を一般の人が使えるようになって今月でちょうど10年となりましたが、「いざっ!」という時に使えなくては意味がありません。今年の全国調査でも、いざ

という時に「使う自信がある」と回答したのはわずか36%と低迷していますが、昼間の時間の大半を過ごす学校においては、誰もが勇気と自信をもって使えるように、今後も毎年の訓練を続けたいと思います。自分の生活圏での設置場所も確認しておきたいですね。
なお、1、2年生も1学期末に各2時間の救急救命講習会を予定しています。

AED

- ①職員玄関前
- ②体育館入口
- ③野球部部室

本校には3台設置してあります

いざという時に



頼りになる公衆電話です

携帯電話やスマートフォン普及で、市街地の公衆電話は絶滅危惧種のごとく激減しましたが、三刀屋高校には今も2台の公衆電話が設置してあります。職員室前の廊下と体育館の外です。
先月、保守点検に来校された業者の方に「ほとんど利用がないでしょうね」と声をか

けると、「その通りですが無くすわけにはいきません。自然災害等で携帯電話や固定電話が通じにくくなっても、最後に頼りになるのが公衆電話です。災害時に公衆電話に行列ができるのはそのためです。」と教えていただいた。もちろん、110番や119番への緊急電話も無料簡単通話が可能です。
忘れて171?!

旬の台風8号の接近時にも、災害用伝言ダイヤル(171)および災害用伝言版(web 171)が運用されています。詳しくはWEBで確認していただき、いざという時のためにご家庭でも話題にされてみてはいかがでしょうか。



使用ソフトは編集長

試合会場取材する際に、しばしば「応援席はそっちじゃないですよ」と声がかかりますが、私は対戦チームの応援席から三高ベンチ・応援席に向けてカメラを構えます。私は孤独な編集長。▼使用する編集ソフトは某社の「パーソナル編集長」。家電量販店でも販売しています。基本的にはワープロ感覚のソフトで、折込チラシのように、好きな所に文字や画像を自由にはめ込むことができます。全国の高校新聞部も大半が導入するソフトでオープン価格は一万円台。興味ある方はご利用をお考えください。多方面で重宝します。▼本紙は保護者の皆様のほか、今年度から雲南市内外にも配布させていただきました。印刷は業者に発注するため、お手元に届く際には発行日からかなり時間が経っている場合があります。告知行事等については、すでに終了している場合もあります。すこすこことをご了承ください。